

高等部が就業体験をしました。

高等部では校内外で実際に働く「就業体験」を年に2回設けています。校外実習場所は一般企業や、福祉サービス事業所等です。作業内容は農業、木工、情報入力、軽作業、清掃、接客、創作活動等、多種多様です。日頃の学習成果を発揮し、最短で1日、最長で2週間の実習にチャレンジします。実際に働くことで「どんな仕事が自分に合っているか」「どう仕事したら力が発揮できるか」などがわかります。さらに自分の体験を「高等部就業体験報告会」で共有しこれからの学習や進路の参考とします。就業体験は卒業後の生活に直接関わる大切な学習の機会です。

就業体験に御協力くださる地域の一般企業、福祉サービス事業所では、一人一人の生徒に合わせた仕事内容を一緒に考えてくださり、生徒に丁寧に指導して下さいます。生徒は多くのことを学んで成長しています。本当に感謝しています。



最近、福祉サービス事業所で「農福連携」に取り組むところが増えています。

「農福連携」とは、障がい者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組のことです。障がい者等の雇用・就労の場の拡大を通じた農業生産の拡大、良質な農作物のブランド化の推進、障がい者等の社会参画意識の向上と工賃（賃金）の上昇を通じた自立を支援することを目指しています。農作物が商品となるまでには、ビニル等の設置、収穫、商品情報シール貼り等、多様な質の仕事があります。一人一人に合った質の仕事にチャレンジしている生徒たちの姿を見ることができ「農福連携」の可能性を実感しました。